

釧路市教育委員会 令和6年第21回12月定例会会議録

1 日時：令和6年12月24日（火）13時30分から15時00分まで

2 会場：釧路フィッシャーマンズワーフMOO 2階 教育委員会室

3 出席者

岡部義孝教育長

（教育委員）

山口隆委員、小出美貴子委員、榎山彩子委員、大山稔彦委員

（事務局）

齋藤学校教育部長、工藤生涯学習部長、本川教育指導参事、森学校教育部次長、大島総務課長、西崎施設計画主幹、小西教育政策主幹、齊藤総括指導主事、佐藤青少年育成センター所長、渡部給食担当主幹、及川北陽高校事務長、澤口生涯学習部次長、曾根美術館長、秋葉博物館長、竹内スポーツ課長、中谷園長補佐

4 議事録署名人 山口委員 大山委員

5 傍聴人数 0人

6 提出案件

【公開案件】

報告事項

（1）令和6年第5回釧路市議会12月定例会の議決結果について

（2）令和6年第5回釧路市議会12月定例会の審議内容について

（3）学校の現状について

7 会議内容

【公開案件】報告事項

- (1) 令和6年第5回釧路市議会12月定例会の議決結果について
- (2) 令和6年第5回釧路市議会12月定例会の審議内容について

(大島総務課長)

報告事項1、令和6年第5回釧路市議会12月定例会の議決結果について報告する。

先月の教育委員会において承認いただいた2件の補正予算案及び議案第120号の「釧路市学校給食センター条例の一部を改正する条例」については、すべて原案どおり可決された。

また、釧路市報告第40号の交通事故に係る「専決処分報告の件」については、報告が完了したことを報告する。

続いて報告事項2、令和6年第5回釧路市議会12月定例会の審議内容について報告する。

令和6年第5回釧路市議会12月定例会の一般質問については、日本共産党議員団、西村雅人議員より「新市長の政治姿勢のうち学校給食費の無償化について」、自民市政クラブ、夏堀めぐみ議員より「投票率向上の取組のうち主権者教育について」、創志会、藤井若菜議員より「釧路市内の高等学校における地域への愛着強化について」、公明党議員団、松原慶子議員より「スポーツ振興及び子育て支援について」、日本共産党議員団、小山秀人議員より「地域重視の生涯学習について」、自民市政クラブ、大澤恵介議員より「ALTの人材確保等、鶴間市長の選挙公約及び仁々志別小学校の跡地利用のほか、中学生の自転車通学について」、創志会、大越拓也議員より「市におけるスクールソーシャルワーカーの役割と課題について」、日本共産党議員団、梅津則行議員より「こども基本法の認識や子どもの権利に関する認知及び理解度等について」のご質問をいただき、それぞれ答弁を行った。

尚、詳細については質疑要旨のとおりとなる。

◎この報告について、各委員からの発言はなし

【公開案件】報告事項

- (3) 学校の現状について

(本川教育指導参事)

報告事項3、学校の現状について報告する。

釧路市内の小・中・義務教育学校では、明日12月25日にいわゆる2学期の終業式を行い、翌26日から1月14日までの20日間、冬季休業に入る。

中体連関係では、報道にもあったように昨日まで釧路市で行なわれていた全道中学校アイスホッケー大会で地元鳥取中学校が、全校応援を受けた中善戦したものの惜しくも決勝で敗れ準優勝に終わった。来月帯広市で開催される全国大会での巻き返しに期待したいと思う。

前回の定例教育委員会でも報告した指導主事による各学校に出向いての示範授業だが、信頼にもアンケートに記載された感想の一部を記載したとおり、参観した先生方からかなり高評価を得た。釧路市が目指す授業の在り方を実際に見せることによって、教員の授業力向上には有効な手段の1つだと思うので、今後も実施して参りたいと考えている。

河川や海岸付近を中心に釧路市内の各所に防災行政無線が設置されているが、児童生徒のみならず住民がその放送が聞き取りにくい地域を対象に、学校の放送設備を活用して校舎外に向けた放送試験を行い、伝達範囲等の確認を行いたいと、防災危機管理課から依頼があった。市民の安全確保に直結することでもあることから、直接担当部署から連絡があった学校については、快く引き受けて欲しいと各学校にはお願いをしたところである。

1月18日に予定されていたが、急きょ来釧できなかった文部科学省の数学科、水谷視学官が、改めて日程調整を行い、当初の計画に沿った内容で、1月21日に幣舞中学校を会場に実施することになった。算数数学の授業改善に役立つ研修会となるよう努めてまいりたいと考えている。

2月8日に予定している、元プロ野球選手の鶴岡慎也氏を招いての教育講演会だが、昨日、新聞でも紹介されたこともあり、主に一般市民の方々から昨日だけでも50名を超える申し込みがあった。会場がコーチャンフォー釧路文化ホールの小ホールを予定しており、会場の定員が300名ということから、うれしい悲鳴として捉えながらも、対処法について検討を始めたところである。

◎この説明について、各委員から次のとおり発言あり

(大山委員)

今年度から初めて実施した指導主事による示範授業ということで、先日、赤本純基指導主事と佐藤義人指導主事の授業に参加した。2人とも授業が大変上手で、これが釧路市が目指す授業だということが見ただけでわかるものであった。本当に心から感謝している。またそれを実施した小、中学校では、先生方が全員参加できる体制をしっかりととられていた学校が多くあったので、先生方の意識がかなり変わったと実感した。学校の研修は、今まで口で言いながらも、なかなか前に進まないものが多かったが、今回は先生方が何をしていたかなければならないかが明確になったと思う。まだ十分に理解できていない教員もいるが、理解している教員がどんどん多くなってくると思うので、引き続き各学校へ積極的に働きかけていただければと思う。

(靱山委員)

同じく示範授業についてだが、参加した先生方の意見を資料に具体的に掲載していただき感謝している。私も同じように2人の指導主事の授業を見たが、先生自身が楽しんで授業をしており、子どもたちも同じく楽しんで参加している様子が見られたことから、本当に素敵な授業だと思った。学校によっては示範授業の後に、先生同士が意見交流を行っており、新たな学びにつながっている様子が伺えた。また示範授業の数週間後に、ある小学校を訪問し

た際には、担任の先生と校長先生との間で、最近の授業は佐藤義人指導主事を意識して授業をしている等の会話があるということを校長先生から聞き、示範授業が具体的な行動とやる気につながっていると感じた。

示範授業を見ていて、担任の先生であれば当たり前になっていて褒めていないようなことも、指導主事が外部の先生という立場だからこそ、話を聞く姿勢を自然に褒めていたりしている場面もあり、児童生徒にとっては勉強面だけでなく今後につながる授業であったと感じた。

(山口委員)

示範授業については、学校によって差があったように感じる。今年度受け入れることができなかった学校については、来年度以降広げていただき、課題が残った学校については、校長先生を中心に受け入れ体制を改善したうえで、もう1度その学校で実施していくことも今後必要だと感じている。全体を通しては非常に素晴らしい取組であったと感じた。

(小出委員)

上手な授業をするという観点だけではなく、子どもとどのように関わっていくかということ意識すると良い授業ができるのではないと思った。飛び込みで授業を行った赤本純基指導主事と佐藤義人指導主事があれだけの授業ができたということは、授業中に子どもたちとこういった関わり方をすると、上手く授業を進めることができるということであり、それを授業だけでなく、授業以外の活動でもそういった視点を持って活動していただけたら、様々な活動が充実し、成長につながっていくと感じた。成績を上げるためだけの授業ではなく、子どもとの関わり方が大事だという視点で、学校生活の中で子どもたちを見ていただき、釧路市がどういったところを目指しているかということ、この機会に皆で共有してもらえたら良いと思う。

また資料に掲載されている防災危機管理課からのお願いということで、学校が避難所になった際は、皆が初めてのことで上手く事が運ばず、悩んでしまうことが想定されるので、防災危機管理課と連携を取り、困ったときには誰に連絡をすれば良いか等、顔と顔でつながっておくことが大事だと思う。これを機会に防災危機管理課との連携を強化していただければと思う。

(岡部教育長)

示範授業に関する意見は、4人の教育委員からいただいた意見と私も大体同様であるが、今回示範授業を実施した時期が、教育委員会指定の公開研究会と概ね重複する時期であった。示範授業と公開研究会との役割は必ずしもイコールではないと思うが、そもそも公開研究会というものは、練りに練った良い授業を見てもらいながら、研究協議を通して自分たちの授業の在り方を見つめ直すことがテーマだったと思うが、最近の公開研究会は、若い先生の飛躍の場のような設定となっており、その授業を見て、来場された他校の先生方が何を思うのかと感じており、この示範授業を続けていくのであれば、示範授業と公開研究会の役割分担をしっかりと行う必要があると思う。いつも話しているが、個人的には公開研究会は不要であると思っている。今年度の取組を通して、教育委員会内でも協議をしたいと思う。

(山口委員)

2月の教育講演会の件だが、非常に反応が良いということで、小ホールで賄いきれるのだろうかと感じているが、会場変更等は無理なのか。

(本川教育指導参事)

まなぼつと幣舞の大ホールも、コーチャンフォー釧路文化ホールの大ホールも、講演会の実施が決定した段階で既に確保できない状況であったことから難しい状況ではあるが、何か良い方法がないか探っていきたいと思う。

(山口委員)

小ホールと別室をつなぎ、リアルタイムでその講演内容を聞くということは、コーチャンフォー釧路文化ホールでは不可能なのか。

(本川教育指導参事)

それを含めて検討するが、鶴岡氏からは一般的な講演内容だけではなく、トークショーをしたり、会場に居るお客さんとやり取りをしたいという意向もあることから、できるだけ工夫をしながら、お客さんを限界まで入れて一体感を持って実施したいと考えている。ただ、日程を変更することはできないので、現状の日程で効果のある方法を検討したい。